

女性議会

質問通告書一覧

令和3年1月19日

【発言の順番】

1番 手嶋 和美さん

テーマ： 公園管理について

2番 伊藤 優衣さん

テーマ： 西尾市で快適に暮らすために

3番 渡辺 莉帆さん

テーマ： 交通安全対策について

4番 岡田 美保子さん

テーマ： 家族形態の多様化と地域コミュニティの関わり方について
(男女共同参画を身近なコミュニティから)

5番 高木 祐子さん

テーマ： 市内在住の外国籍親子の子育て支援について

6番 佐々木 映美さん

テーマ： 親子で楽しめる公園や施設を

7番 倉内 千晴さん

テーマ： 岡崎聾学校・岡崎盲学校に通学する児童・生徒に送迎バスを

女性議会 質問通告書

氏名 手嶋 和美

テーマ	公園管理について
<p>現状や課題</p> <p>意見・提案事項</p>	<p>私は、現在、シルバー人材センターの紹介で西尾市立図書館の清掃に従事しており、この仕事を始めて7年余りになりますが、日頃目にし、感じていることについて質問したいと思います。それは、鶴城公園一帯の管理についてです。</p> <p>図書館周辺は鶴城公園として整備され、多くの方が利用されています。昨年度には、公園内に市内最大のコンビネーション遊具も新たに設置され、土曜日や日曜日、長期休暇などには多くの親子が訪れて順番待ちをしています。また隣接する岩瀬文庫には貴重な古書が多くあり、県内外から多くの方が研究のために利用されています。</p> <p>私は、朝一番の作業として、敷地内のゴミ拾いしているのですが、気付いた点を挙げてみますと、たばこの吸い殻、草むらには犬のフンがそのままになっていることがあります。また、レンガが敷き詰められ通路や花時計周りには、レンガとレンガの隙間に雑草が生え、公園前の市道のブロックが敷かれた歩道には、ブロックとブロックの隙間に土埃がたまり、時期によっては1メートル近く伸びた雑草が生えて歩きにくくなっています。毎年、10月最後の土曜日、日曜日は「本まつり」が開催されています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの開催となりましたが、例年、市内外から多くの方が訪れます。駐車場を確保するため、鶴城丘高校を臨時駐車場として利用しているようですが、そこに駐車して会場へ行くためには、雑草が生い茂った歩道や通路を通る必要があります。自分でも、仕事とは別に気付いた範囲で草取りをしていますが、このような状況について、一市民として恥ずかしく感じています。</p> <p>そこで質問します。</p>
<p>質問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雑草が子どもの背丈よりも伸びてしまうことがないように草刈りの回数を増やすなど、親子が安心して快適に公園を利用できるように管理しませんか。 2. 岩瀬文庫は、西尾市の文化の発信地としての重要な施設であると考えます。公園内だけでなく、周辺の歩道の草刈りなども一緒に行い、県内外から多くの方が訪れた際、気持ちよく利用していただけるようにしませんか。

女性議会 質問通告書氏名 伊藤 優衣

テーマ	西尾市で快適に暮らすために
現状や課題 意見・提案事項	<p>私は、西尾市に住み、市内の高校に通っています。西尾市で生活している中で、感じていることがあります。まずは、バスのことで2つ思っていることがあります。一つ目は、自宅がバスのルートから外れているため、バスを使うことがありません。自分で出掛けたくても親に車での送迎をお願いしています。もっとバスのルートを広げてもらえると、親を頼らず自分で行動ができるのと思っています。二つ目は、バスを利用して通学している同級生がいますが、「学校に間に合うようにバスを使うと早く着き過ぎてしまう」という話を聞きました。そのため、通勤・通学の時間帯に、もう少しバスの運行本数を増やすなどの対策をすることができないのかと思いました。</p> <p>次に、私は散歩をすることが好きで、家の近所を歩くことが多いのですが、歩道の脇にポイ捨てされたゴミや、長く伸びている雑草が足に引っかかったりすることが気になります。特に街灯もない場所だと「危ないな」と感じます。小さな子供や高齢が歩く場合は、特に危険なのではないでしょうか。草刈りをしているところを見かけたことがありますが、ここは草刈りが必要、ここはまだやらなくてよいという基準があるのか、また、市民の協力をお願いするなど何か対策があったりするのかわかりたいと思いました。</p> <p>西尾市で快適に暮らすためには、市営バスなどの利便性の向上と安心して利用できる道路の管理が必要と考えます。</p> <p>そこで質問します。</p>
質問	<ol style="list-style-type: none">1. 市内で運行している市営バスなどについて、通勤・通学に合わせて運行時間等の変更や運行範囲の拡大は可能ですか。2. 街灯を設置してもらうための基準はありますか。3. 歩道の草刈りやゴミのポイ捨て対策など、どのように道路を管理していますか。

【再質問】

道路ではゴミのポイ捨てについて特別な対策はしていないと
のことですが、市として、ゴミのポイ捨て対策はあります
か。

女性議会 質問通告書

氏名 渡辺 莉帆

テーマ	交通安全対策について
現状や課題 意見・提案事項	<p>私は、普段からバスや電車、自転車などを移動手段として利用していますが、交通事故を起こしやすい場所や状況など、いくつか気付いたことがあります。</p> <p>まず、自転車に乗る人のマナーについてですが、イヤホンをつけたまま自転車に乗っている人をよく見かけます。実際に歩いている時に、何度もぶつかりそうになりヒヤッとしたことがあります。イヤホンをつけたまま自転車に乗る行為は、小さな子どもや高齢者に気付かず、悲惨な事故につながる危険性があると思います。また、登下校時には、話をしながら並走している自転車もよく見かけます。危ないなと思いつつも、声をかけるなどの具体的なことはできないのですが、これも事故につながる危険な行為だと思います。</p> <p>次に、横断歩道を渡る時に、押しボタン式信号機を使うことがあるのですが、反応しない信号機があったり、道が細く見通しが悪い曲がり角にカーブミラーがなかったり、一旦停止マークが見つらい場所があったりと、交通事故が起きやすい危険な場所がいくつかあることに気づきました。</p> <p>悲惨な交通事故を起こさないためにも、このような危険な場所や状況について、しっかりと交通安全対策が必要だと考えます。</p> <p>そこで質問します。</p>
質問	<p>1. 自転車の並走やイヤホンをつけたままの危険運転をなくすために、どのように交通安全対策や啓発を行っていますか。</p> <p>【再質問】</p> <p>小学校を中心に交通安全教室を開催しているということですが、ヘルメットを着用せず乗っていたり、自転車の並走も何度か見かけます。交通安全教室の指導で呼びかけていてもその場限りで終わってしまい、守られないように思います。そのように感じたことはないでしょうか。</p> <p>また、1月7日の中日新聞に自転車ヘルメット購入補助の記事がありましたが、詳細を教えてください。</p>

	<p>2. 道が細く見通しの悪い場所など危険な場所について、市民からの通報はありますか。また、このような危険な箇所についてどのような対策を行っていますか。</p> <p>【再質問】 カーブミラーについて、現地確認をした結果、設置する必要がないと判断する場合などはどのような理由ですか。</p>
--	---

女性議会 質問通告書

氏名 岡田 美保子

テーマ	家族形態の多様化と地域コミュニティの関わり方について (男女共同参画を身近なコミュニティから)
現状や課題 意見・提案事項	<p>地域のコミュニティである自治会、町内会について、付き合いが煩わしい、面倒、大変だからなどの理由で関わりを遠ざける家庭が増えていると聞きます。しかし、行事や声掛けを通じて地域の子育てや高齢者の見守りなどをサポートしたり、大規模災害が起きた場合など、町内会の役割はやはり重要だと考えます。忙しい共働き家庭も増え、少子高齢化も進む中、子供のいない家庭や高齢者のみの家庭、母子・父子家庭、独り暮らしなど家族の形の多様化が進んでいます。また、最近ではリモートワークが広まったこともあり、今後、都市部から転入してくる世帯や、パートナーシップ宣誓制度のある西尾へ移住したい性的少数者世帯も増えるかもしれません。</p> <p>このように時代の流れで家族の形が多様化することにより、それぞれの家庭の事情など、デリケートな問題については触れにくいこともあって、ますます地域との関わりが希薄になってしまう可能性があります。このままいくと、不安や問題を抱えていても埋もれて見えなくなってしまうため、これまでのやり方では問題が多くなるのではないかと考えます。</p> <p>そこで、家族の多様性を認め合い、不安や問題を少なくするためのひとつの案として、「男女共同参画プラン」の視点から解決方法を探ることができないかと考えました。</p> <p>私自身の話になりますが、西尾市に家を買ってしばらくして町内会の役が回ってくることになり、夫婦で役員顔合わせの場に行きました。私は専業主婦で子どももいないため、時間を取られる役員の仕事は私が担当してもいいと思っていました。ところが、顔合わせにはほぼ男性しか集まっておらず、当然のように役員は夫とされていました。とりあえず私が出入口付近に下がっていると、「席はどこ？子供会？」と声を掛けられました。声を掛けてくれた方に悪気はなかったのですが、女性は子ども会に参加するものという思い込みがあったのかなと思います。家族形態は多様化しているのに、現状は町内会役員は男性が中心で、女性は子ども会と役割分担がされてしまっているようで、これでは子どもがいない女性は関わりにくいと</p>

	<p>感じました。こういった少数派の居場所をなくさないように、役割を性別で固定させず、柔軟に対応する必要があると考えます。</p> <p>各地区によって違いがあると思いますが、私がここ数年みてきた町内会は、川掃除、ゴミ当番、防災訓練、神社掃除、お祭り、老人会、子ども会行事等を慣行通りに繰り返しているようです。現状では、役員はほぼ順番で決まっている所もあり、特別な資質が求められるというわけではなく、男性でないとできないということはなさそうです。夫名義で役員となり、実質活動は妻がしている場合もあるようです。また、地区によっては高齢化で役員のなり手が少なく、何年も同じ人のところもあると聞きます。町内会活動の持続可能性を確保するという点からも、町内会の活動方法から見直し、活動の担い手を老若男女偏りなく増やす必要があると考えます。町内会活動を負担に感じる方にも参画しやすい方法を探し、変えていけばよいのです。</p> <p>内閣府男女共同参画局が平成 29 年 3 月に作成した資料「持続可能な自治会活動に向けた男女共同参画の推進について」によると、女性参画推進の観点から自治会業務の見直しを行っている事例もあるようです。市議も県議も国会議員も、男性ばかりでなかなか変わりません。いっそ、選挙もない身近な町内会から変化を起こしていくことはできないでしょうか。</p> <p>そこで質問します。</p>
<p>質問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市では、西尾市男女共同参画プランを策定していますが、男女共同参画の必要性を広く周知し、市民の意識を変えていくために、現在どのような取組を行っていますか。 2. 男女共同参画プランにある西尾市女性活躍推進計画の重点的項目に「地域や企業、各種団体等における女性の参画促進」があります。今年度の西尾市の町内会長の男女比率は、町内会長 400 人のうち、女性は 3 名とのこと。地域のコミュニティにおける女性リーダーの育成や、各町内会の女性役員割合の目標設定、または町内会役員のクオータ制を推奨するなど、もっと地域のコミュニティにおいて男女共同参画が推進されるように後押ししませんか。 3. 地域でのつながりを持ちにくい家庭が、地域のコミュニティへの参画を通して地域とつながりを持ち、問題を抱えていても埋もれてしまうことがないようにサポートしていきませんか。

女性議会 質問通告書

氏名 高木 祐子

テーマ	市内在住の外国籍親子の子育て支援について
<p>現状や課題</p> <p>意見・提案事項</p>	<p>現在、西尾市には 10,000 人近い外国籍住民の方々が暮らしています。その中には家族で日本に住み、妊娠・出産・子育てをしている方も多くみられます。保育園、幼稚園、小中学校を見ても、外国籍の子どもが多く在籍しているのは明らかです。しかしながら、これらの外国籍の方々が日本での子育てについて相談できる機会はとても限られているのではないのでしょうか。日本人であれば、ママ友や保健センター、身内などに相談できるのですが、家族単位で来日し、親しい人もいない中での子育ては心配も多く、心細い思いをしていると思われます。</p> <p>愛知県が策定した「あいち多文化共生推進プラン 2022」の推進施策の 1 つとして「出産・子育て支援策の実施」という項目があり、数年前から、子育て世代をサポートするために県と市町村が連携して「多文化子育てサロン」を設置する事業が進められています。この事業は、1 か所の拠点を設けて日本人親子・外国人親子の交流を図るといった内容の取り組みですが、拠点が 1 か所であるため利用できる親子が限られてしまい、小さな子どもと一緒に出掛けるのは難しい保護者もいるでしょう。</p> <p>そこで私が提案したいのは、「子育て支援センターを活用した多文化子育ての取り組み」です。各保育園に併設された子育て支援センターは、誰でも利用できる場所であり、今後、利用するであろう保育園の中に設置されている場合もあります。交通手段を選ばず気軽に利用できる場所を活用することで、子育て世代の外国人親子と日本人親子の交流ができ、孤立しがちな外国籍保護者のサポートにもなると思われます。また、日本式の子育てを教えるだけでなく、他の国々の子育て事情を知ることでもでき、子育てに困っている日本人にとっても、様々な情報を得る機会になるのではないのでしょうか。</p> <p>何より、行政が運営している場所は、外国籍住民にとっては「信用できる」場所であり、子育て支援センターとして住民に広く認識されている場所を活用することで、気軽に安心して利用できるのではないのでしょうか。</p> <p>現在、西尾市多文化共生プランの策定も進められています。県とは違った西尾市独自の多文化子育て支援を考え、プランの一つとして考えていただけたらと思います。</p>

<p>質問</p>	<p>そこで、質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="512 320 1391 479">1、あいち多文化共生推進プラン 2022 の施策目標にある「ライフサイクルに応じた継続的な支援による“支援のつながり”」について、西尾市として、どのように考え、子育て支援に取り組んでいきますか。<li data-bbox="512 533 1391 904">2、市では、子育て支援センター、子育てサークル等、子育て支援に多く取り組んでいますが、外国籍保護者の利用が少ないように思われます。あいち多文化共生推進プラン 2022 の施策目標にある「外国人とともに暮らす地域への支援による“地域とのつながり”」、「互いに支え合う共生関係づくりによる“人と人とのつながり”」という視点から、このような取り組みが外国籍保護者に周知されるような取り組みを行っていますか。また、今以上に周知を図っていく考えはありますか。<li data-bbox="512 958 1391 1330">3、西尾市においても、外国籍親子に関わる部署として、就園前の親子を支援する「家庭児童支援課」や、外国人を支援するNPOと関わりがあり国際交流協会の事務局でもある「地域つながり課」、プレスクールや初期指導教室を管轄している「学校教育課」等があります。行政の横のつながり、また、それぞれの部署に関わる企業や民間団体とも連携することで、幅広い支援ができるのではないかと考えます。関係部署の連携を強化し、包括的に支援できる体制を構築しませんか。
-----------	---

女性議会 質問通告書

氏名 佐々木 映美

テーマ	親子で楽しめる公園や施設を
<p>現状や課題</p> <p>意見・提案事項</p>	<p>私は西尾市で生まれ育ちました。この町が好きで、今も住んでいます。今まで、西尾市は都会過ぎず田舎過ぎず、住みやすい町だと思い、何の不満も感じていませんでした。</p> <p>しかし、結婚を機に西尾市に引っ越してきた友達に「西尾は1日遊べるような公園が無くて、子育て世代には残念な町だと思う。」と言われ、はっとさせられました。確かに、小さな公園はたくさんありますが、小学生までの子ども達が1日遊べる公園などの施設がほとんど無いことに気づきました。近隣の岡崎市には動物がいる公園があり、刈谷市にはお金がかからず遊べ、飲食もできる施設がある大きな公園があり、安城市や碧南市には安価に楽しめる遊園地のような公園があります。近隣市と比べると、やはり西尾市も公園づくりにもっと力を入れるべきだと思います。</p> <p>今後、これから家庭を築いていくような若者や小さな子どもを持つ子育て世代が、西尾市を選び住み続けることは、西尾市の活性化にも繋がっていきます。また、市外からも公園に遊びに来てもらえるようになれば、それも西尾市が潤うことに繋がると考えます。そこで、子どもがのびのび遊ぶことができ、保護者も楽しみながら安心して子どもを遊ばせることができるような、子どもも大人も楽しむことができる公園や施設づくりに力を入れる必要があると考えます。</p> <p>そこで質問します。</p>
<p>質問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度の施政方針に掲げる主な事業の中で、「子育てをやるなら、やっぱり西尾市」の環境づくりとあり、いくつかの項目が挙げられています。子育てしやすい環境を整えるためには、保育料一部無料化などの一時的な施策や保育園や学校施設の充実だけではなく、子ども達がのびのびと遊べる公園などの施設の充実も必要だと思いますが、市としてどのように考えていますか。また、今までにそのような意見はありませんでしたか。 2. 公園内に飲食ができる施設があると、より集客が見込めて活性化に繋がると思いますが、そういった店舗を誘致してはどうでしょうか。

女性議会 質問通告書

氏名 倉内 千晴

テーマ	岡崎聾学校・岡崎盲学校に通学する児童・生徒に送迎バスを
現状や課題 意見・提案事項	<p>私は一色町に住んでおり、20年前から「子育て支援にここ」という子育てサークルをボランティアで運営しています。サークルでは、0歳から3歳までの未就園児親子が、親子ふれあい遊びや季節行動を楽しんでいます。ある日、サークルの参加者から、「県立岡崎聾学校と岡崎盲学校への送迎バス運行を求める署名活動に協力してほしい。」と言われて驚きました。それは安城特別支援学校のように、既に送迎バスがあると思っていたからです。利用者が少なく費用もかかるため、未だ実現していないのが現状だとも聞きました。西尾市からは岡崎盲学校に通学している児童・生徒はいないとのことですが、サークルに参加している方の友人のお子さんが岡崎聾学校に通学しており、毎日、車で送迎しているとのことでした。そのため、働くことができずに困っているというのです。通学時間帯のことを考えますと、往復で2時間近くかかってしまい、学校まで送った後、自宅まで帰れば午前10時近くになります。また、お迎えの時間が午後4時だと想定しますと、午後3時前には自宅を出なければなりません。これでは、フルタイムではもちろんですが、パートタイムで働くことも難しい状況です。お子さんが大きくなれば、バスや電車を利用して通学する方法も考えられますが、一色町からでは何回も乗り換えをしなければなりません。また、健常児ですら、登下校時には不審者に気を配る状況であり、一人での長時間の通学は大変な危険を担わせてしまうのではないのでしょうか。</p> <p>2017年5月に市長が発表したマニフェストでは「子育て・福祉に全力投球する市政」を掲げていますが、こういったマイノリティな家庭にこそ目を向けて取り組むべきではないのでしょうか。市の大切な宝である子ども達の健全な育成のために、県立の学校であるからという理由で手をこまねいてはいけません。</p> <p>そこで質問します。</p>

質問

1. 西尾市だけで送迎バスを運行することが費用面において厳しいのであれば、安城市や碧南市などの近隣市と協力して運行してはどうでしょうか。
2. 女性が活躍する社会の中で、障がいを持つ子どもが将来困ることがないように働きたくても働くことができずに取り残されている母親がいます。これに対し、どのように向き合い、サポートしていきますか。